

川本俊征、田崎芳江、新崎一明、中谷謙造、笠井薫、笠井茂子、樽本芳郎、武田浩、末廣登代子
(以上22名内2名は休会員) (◎はSGS卒業または在学) (○はシルバーカレッジ卒業生)



須磨離宮公園 本園の噴水広場を展望



担当地域のミニハーブ園と裏のお弁当広場

(イ) 当クラブの活動の趣旨

天下の名勝地・須磨の高台の、元皇室の別荘「武庫離宮」の跡地に建設された「神戸市立須磨離宮公園」内で、森林浴をしながら、清掃・園芸・木工作業・堆肥づくり等々のサポート活動をしている。また、同時に公園の四季折々の自然美を楽しみ、各種公園内のイベント、そしてクラブメンバー同士の交流・懇親をエンジョイするというのが、「サポート&エンジョイ」の趣旨でクラブ名の理由でもある。

(ロ) 当クラブの発足経緯

2007年春頃、世話人代表の嶋谷徹(生環7期、SGS1期)がハーブに関心があったことから公園内の「ミニハーブ園」の除草ボランティアを個人的に始めたのがきっかけで、同年秋に「落葉堆肥製造」を公園内で行って、一般市民に「落ち葉→良質な堆肥→健全土壌作り材料」をPRしたいと公園長に依頼し、お弁当広場の東側の林内で「落葉堆肥囲い」を5基設置させてもらい堆肥作りを開始していた。(木工名人の生環8期・横田智委氏に説明板を作成依頼。) 2009年2月に、シルバーカレッジの2年生の環境関連授業の一環として、「卒業生のボランティア活動報告」を要請され、ちょうど近隣の友人たちとクラブ組織を立ち上げていたので、他の団体とともに報告したところ、生環15期生の15名が共鳴・入会し、一挙に本格的な公園内ボランティア団体となった。

15期生は里山活動に重点を置き、従来のメンバーはお弁当広場周辺の美化・清掃を重点としたので、運営上の都合で2チームは円満分離し、当メンバーは近隣在住者主体になった。

(ハ) 当クラブの具体的な活動内容

- (1) 「ミニハーブ園」の経常管理 (清掃・除草をはじめ、栽培・剪定・施肥等も行う。)
- (2) 「お弁当広場」周辺の清掃 (学校や家族の遠足の昼食場所の除草・清掃美化活動)
- (3) 落ち葉堆肥作り (上記等で発生した雑草や落ち葉を、5基のベニヤ囲いで堆肥化する。)
- (4) エンジョイ活動 (公園イベント参加、新年会、総会後の昼食会、外部施設の見学会等々)

(ニ) 運営方法

- (1) 入会者には「会員カード」交付・・・入場・駐車料金免除、公園よりイベント招待。
- (2) 4月の総会で代表はじめ世話人を7名ほど選出。通常案件は世話人で合議・決定。
- (3) 原則としては各メンバーが、自分の都合に合わせて来園し自由に作業をする。

(4) 月1回共同作業日(第2火曜)を定めて、大作業を行い、合わせて交流・懇親を図る。

(ホ) 当クラブの活動に対する基本的な考え方

(1) 義務感ではなく、エンジョイできる範囲で、気楽に活動する。

(2) 公園で活動させてもらうという感謝の気持ちで、完全無償で行う。(年会費 500 円)

(3) 各メンバーの得意技を生かしてもらう。(園芸・木工・写真・堆肥作り、野草研究等々)

(4) 遠足学童や家族連れに、清潔で美しいお弁当広場を提供し、公園への好印象を心がける。

(6) 「ミニハーブ園」を美化すると同時に、一般市民に植物が持つ色々な効用を発信する。

(7) 「落葉堆肥作り」を通じて、「自然循環の重要性」を子供たちに知ってもらう。



林の中に設置した落ち葉堆肥囲い



園路に面した「落ち葉堆肥の説明看板」

(ヘ) SGS在校生ならびに卒業生のクラブ内での活躍

当クラブには、シルバーカレッジ卒業生5名が在籍、内3名がSGSの在学または卒業生である。

○SGS 1期・嶋谷徹は、世話人代表兼事務局として対外的に代表し、事務局部門を担当する。

○SGS 4期・嶋谷満洲子は、事務局補佐ならびに食のハーブゾーンを担当している。

○SGS 6期・角本功は、お弁当広場周辺の清掃・美化担当世話人として活躍している。

○生環15期・国里吉秀は、落ち葉堆肥作り世話人として、堆肥作りに活躍している。

○生環15期・松岡治彦は、当会の会計監査を担当。また「里山クラブ」でも活躍している。



公園イベントで、国里さんの堆肥説明



共同作業日のクラブメンバー集合写真